

ボランティアさんをご紹介します！

病棟5階(緩和ケア病床)師長 大畠玲子

緩和ケア病床は、ボランティアの方々により支えられています。現在、3名のボランティアの方々が生動されています。ボランティア活動では、2名の方が毎週木曜日の午後、患者様へのお茶サービスのお手伝いをしていただいています。この方々は、平成22年の当院の緩和ケア病床開設時より活動を続けられています。

当初は、当院の栄養課が準備するデザートと患者様や家族のお好みの飲み物をベッドサイドに届けていただくものでしたが、活動から1年を経過した頃から庭園の花壇に咲いている花々の手入れや室内の観葉植物の手入れもしていただけるようになりました。

お二人とも、お花のお世話の経験もあり、いつのまにか四季折々のお花が咲くようになりました。

これまでは、スタッフが少ない経験を頼りに、お花のお世話をしてきましたが、失敗も多くありました。

ボランティアさんにご協力とご指導をいただいたおかげで、今年は初夏にりっぱな紫陽花が咲きました。

おかげで、患者様やご家族との会話も「今日は花の色が青いね。」「今日は赤みが増えてピンク色になったね。」と会話も弾み、つらい闘病生活の中にひとつの希望を持つことができていると感じることがあります。

また、花壇のお花はとても患者様やご家族の心を和やかにしてくれる効果もあり、患者様から「よう咲いたね。」「ここの花もきれいだけど、うちのはもっときれいだ。家のお花がまたみたいね。」など何気ない会話が広がっていくことがすごく良くわかります。



お茶サービスの際には、栄養課渾身の手作りデザートを提供しています。このお茶サービスは、面会にいられている方々にも提供しています。

あるとき、患者様の長年のご友人がご面会にいられた際にコーヒーを提供したところ「元気な頃にはお茶によく一緒に行っていました。今は一緒にはかけることはできなくなりました。でも、こうしてここでまた一緒にコーヒーを頂くことができ、思いもよらないことで大変感謝しました。」という言葉が頂くことができました。

これもボランティアさんのさりげないご支援がより穏やかな時間と場所を提供していただけたひとこまとなりました。

また、月に1度、ピアノボランティアさんのご協力を頂いています。

ピアノ演奏は、季節ごとの童謡からはじまり、患者様のリクエストに応じた演奏まで幅広いジャンルに対応していただいています。

緩和ケア病床では、春のお花見会や冬のクリスマス会など季節の行事にピアノ演奏をお願いし、スタッフと共に楽しい時間のご提供にご支援を頂いています。

先日、入院中に誕生日を迎えられた患者様がられました。ご家族から折り紙で作成した手作りの花束を受け取られました。この感動的な一場面ではピアノボランティアの方の演奏をバックにご家族・スタッフが一緒に「Happy Birthday」を歌い、みんなで楽しい時間を過ごすことができました。

このとき、ご家族からは「この年になって、こんなに祝ってもらえるとは思わなかった」と話され、たいへん喜んでいただくことができました。

私たちの病棟5階の一般病床では、こうした生演奏で歌うことはめったにありません。

こうしたピアノの演奏をしていただくことで、日々の闘病生活とは異なる穏やかな時間をすごしていただくための一役を担っていただいているものと思います。

このように、緩和ケア病床ではボランティアの方々にサポートを頂くことで、さまざまな行事を行うことができます。こうした時間が、入院生活に病院にはない異なった風を吹き込み、患者様の苦痛を少しでも和らげることができているのではないかと思います。

これからも、ボランティアの方々のご支援を頂きながら当院の緩和ケア病床に入院をされる患者さんにとって少しでも入院生活が穏やかにすごしていただけるよう努力していきたいと思ひます。



平成24年度の実績を少しだけ紹介します！

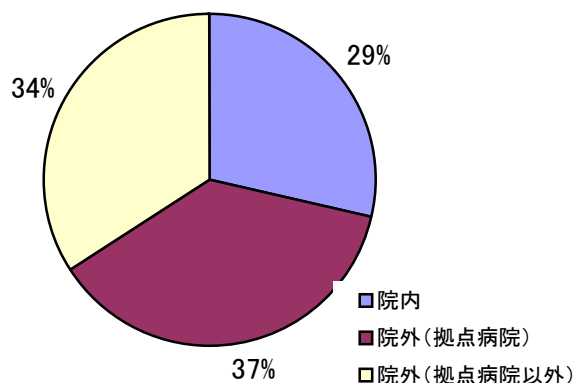
緩和ケア病床 相談依頼元について

当院の緩和ケア病床へご紹介元を示したグラフです。

当院での特徴は、約7割が地域の医療機関様からのご紹介となっています。

また、がん診療連携拠点病院からのご紹介とともに、拠点病院以外のご紹介元では、病院様以外に在宅緩和ケアを実践されています、診療所の先生方などからもご紹介を頂いております。

相談依頼元比較(24年度)



三原市内で特徴的な取り組みとして実践しております、当院の緩和ケア病床の大きな特徴のひとつとして自院のみならず、地域の各医療機関との連携を図り、入院での緩和ケアの提供とともに、在宅緩和ケアへの移行のお手伝い(退院支援)なども積極的に行っていきたいと思ひます。

緩和ケア病床へ入院された患者様のがん種

次に、当院の緩和ケア病床へご紹介をいただいた患者様のがん種についての統計です。

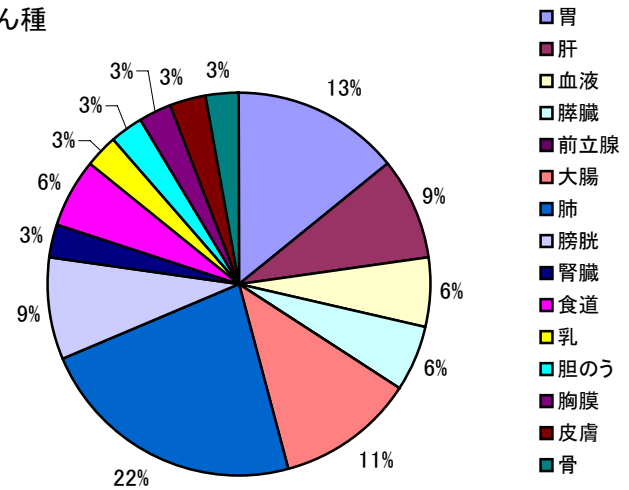
肺癌により緩和ケアを有する患者様が全体の22%、続いて、胃癌13%、大腸がん11%となっています。

当院では、緩和ケア病床の担当医が、主治医制であり、専任の緩和ケア担当医は配置できていない状況ですが、できるだけ患者様とご家族が安心して過ごし、苦痛などを取り除けるよう取り組んでいます。



緩和ケアチームのメンバー

がん種



主治医制であるが為、当院では現在、耳鼻咽喉科領域及び眼科領域のがん種を有する患者様の対応が困難となっております。

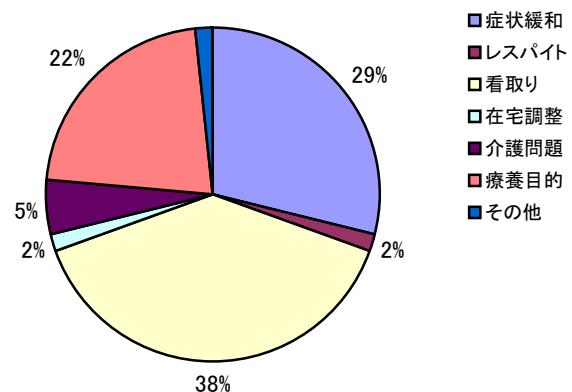
しかし、緩和ケアを必要とする患者様とご家族に少しでもより良い療養環境をご提供するため、緩和ケアチームを中心に日々取り組んでいます。

緩和ケア病床への紹介目的

緩和ケア病床への紹介目的を調べてみました。 利用目的(複数回答)

多くの方は、見取りを目的とした依頼ですが、症状緩和を図り、ご自宅での生活の再開を支援してほしいなどのご依頼を頂くことがあります。

また、診療所の先生方からは、在宅緩和ケア実践の中で、レスパイト目的でのご紹介や、在宅生活のための症状緩和目的などでのご紹介を頂いています。



緩和ケア病床では、多職種でのカンファレンスを定期的に行い、より患者様のニーズに沿ったご支援ができるようスタッフ一同協力して支援を行っています。

緩和ケア病床 入院のご希望・ご要望について

■ 入院の対象となる方

がんなどの悪性腫瘍の患者様で、痛みや病気によって、起こるさまざまな苦痛の軽減などの緩和ケアを望まれておられる方が対象です。

当院では、緩和ケア病床へご入院していただく患者様やご家族が緩和ケアについて、ご理解されともに入院をご希望されていることが大切だと考えています。

そのため、ご入院に際しては、患者様やご家族と担当のソーシャルワーカーが事前にお話をお聞きし、入院に際してのご要望などをお伺いするようにしています。

また、当院の緩和ケア病床では、ご自宅での暮らしをサポートするため、三原市以外や県外の医療機関で加療を行い、自宅での暮らしの準備や、ご自宅で緩和ケアを受けられている方のご家族の都合(冠婚葬祭等でご自宅を留守にされる等)に応じ、ご家族に代わって生活をご支援するための一時的な入院にも対応しております。

※ 認知症状などのために、緩和ケア病床区域の静寂が保てず、他の患者様の生活に影響を与えるような場合は、一般病床への入院をお願いする場合があります。

※ 入院に際しては、医師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの多職種にて入院判定を行います。

※ 入院の順番は、入院の申し込み順を基本としておりますが、病状によっては前後する場合があります。

緩和ケア病床での主な医療サービス

- ① 痛み・食欲不振・息苦しさ・だるさなどの身体のつらさの緩和
- ② 患者様やご家族の不安や心配事などの心のつらさの緩和
- ③ 治癒を目的とした、抗癌剤治療や延命治療などは行いません。しかし、緩和ケアを目的とした抗癌剤治療や放射線治療は患者様やご家族と相談しながら行います。
- ④ 症状緩和に必要な検査や処置・治療は患者様やご家族と相談させていただきながら行います。

■ 入院のご案内・ご相談・見学をご希望の方は

三原赤十字病院 地域医療連携課(担当:医療ソーシャルワーカー)へご連絡ください。

入院相談予約を取らせていただきます。入院相談では、医療ソーシャルワーカーが、病状やお困りのこと等のお話を伺うとともに、緩和ケア病床についての説明を行います。

入院相談へは、ご本人もしくは、病状をよく理解されている方にご来院いただければ幸いです。

緩和ケア病床 入院相談予約

地域医療連携課 **医療ソーシャルワーカー**まで

直通電話:(0848)61-3812

発行担当者(問合せ先)

三原赤十字病院 緩和ケア推進委員会 事務局 地域医療連携課

〒723-8512

広島県三原市東町二丁目7-1

TEL:(0848)61-3812 FAX:(0848)64-8421